

# 農林水産大臣賞（優秀賞）

## 繋ぐ水

新潟県 新潟大学附属長岡中学校 三年 齋喜 璃音

日本だからこそその風景とはなんだろう。日本は他の国に比べると、小さな国である。しかし、その中にも「日本にしかない風景」というものがあると、私は思う。例えば、勢いよくしぶきをあげて落ちる滝や水鏡となり美しさを際立たせる湖、春の訪れを告げるたくさんの桜。その中でも私は、一面に広がる田んぼは日本ならではの美しい景色だと思う。田んぼは四季の移ろいを教えてくれる身近な絶景だと思っている。

日本では様々な食材が国外から輸入される中、我々の主食であるお米はほとんどが国内で作られ、日々の暮らしを支えている。特に新潟県ではお米がたくさん穫れ、さらにおいしいことで有名だ。それはなぜなのだろうか。

お米がおいしい理由とは、土や気候、そして水だという。その「水」に焦点を当ててみる。新潟県では冬に雪がたくさん降り、そして春にはミネラル豊富なきれいな雪解け水として川を流れていく。その川の水を使って米作りをするため、栄養たっぷりですっきりとした水でお米を育てることができる。また、場所によっては湧き水があり、そのまま飲むほどきれいな水もある。このように、新潟県はとても良い水質に恵まれている。おいしいお米がとれる秘密は、透き通るほどの美しさと栄養を兼ね備えた水があるからなのではないか。

さらに、お米は食べるだけではない。お米が育つ田んぼも美しい風景の一つだ。きつと田んぼの風景といえば、夏至の頃の一面の萌葱色がなびく様子や、稲刈り前の黄金にきらめく様子を思い浮かべるだろう。では稲が大きくなる前はどうか。稲が大きくなる前の景色も美しい。透き通った水の上に、まだ足首くらいの高さの若苗色の稲が植えられている。その透き通った水に、大きな空が映る様子や、堂々とそびえ立つ大きな山が映る様子もとても美しい。水鏡が広がること

で、いつもの景色が新しい景色に見える。これもまた、美しい水があるからこそのものだ。

また、水鏡を使ったアート作品も生まれている。私はこの作品を見て、強く心を打たれた。新潟県十日町市にある「清津峡」をご存知だろうか。清津峡とは、日本三大渓谷の一つで、清津峡を挟んで切り立つ巨大な崖が、V字型の大渓谷を作っている。長年の月日をかけて生まれた大きな崖や、季節によって色を変える自然。春にはみずみずしい新緑が映え、冬には美しく雪化粧されるその景色に、心を奪われる。

その清津峡をさらに美しく際立たせるのが、「水鏡」である。そこには、大地の芸術祭の作品として「Tunnel of Light」という作品がある。その作品は、トンネルの中を歩いて進んで三箇所のポイントで清津峡を見ていく。そのトンネルの終点にメインの作品が待っている。トンネルの出口に水が張っており、そのトンネルから見える清津峡の景観を反転して映す水鏡が幻想的な景色を作り出している。

私は、水は「繋ぐ」ものだと思う。なにを「繋ぐ」のかというと、命を繋ぎ、自然と人とを繋いでいると思う。水は、私たちの一番身近にある自然だと感じる。そのまま飲んだり、料理に使ったりする。また、洗濯やお風呂など、衛生的に生活するためにも利用している。私たちの生活をつくってくれるのは水で、命を繋いでくれる。さらに、美しいと感じる多くの景色には水があるように思える。しぶきをあげる水や、揺れながら光り輝く水、白く姿を変えた雪など。水鏡に映ったなんでもないいつもの景色を見るだけでも、水が姿を変えた雪がゆっくり出す普段と違う風景を見るだけでも、人は感動できる。そんな自然と水がつくり出す美しい風景を未来に繋いでいくためにも、私たちの命を繋いでいくためにも、自然や水を守っていかなくてはならない。